

労働の科学

2019
March
Vol.74, No.3

巻頭言 俯瞰 (ふかん)

科学における男女共同参画

川島 慶子 [名古屋工業大学]

1

表紙：「Animal life」 深沢 軍治
板材(共芯シナベニヤ5枚重ね)にカゼイン下地，ガーゼ張り，油彩
53.2×45.7cm(10号F)，2018年
表紙デザイン：大西 文子



女性労働の現在と 男女平等の労働社会

ジェンダー平等を目指す仕事の未来

国際潮流と日本

[日本ILO協議会] 木村 愛子 4

働く女性の健康管理 ヘルシーワークプレイスへの取り組み

[東京家政大学 家政学部] 野原 理子 8

育児や介護との両立・就労継続を可能にする法政策のあり方と課題

[日本大学 法学部] 神尾 真知子 14

ワーク・ライフ・バランス促進に寄与する上司・同僚の肯定的受容

[香川大学 経済学部] 細見 正樹 19

働き方の男女不平等と男女平等政策・労働法制のあり方

[東京法律事務所] 長谷川 悠美 24

「労研デジタルアーカイブ」で読む女性労働の100年

女性労働研究の変遷とこれから

[大原記念労働科学研究所] 毛利 一平 30

Graphic

ディーセント・ワークを目指す職場 3 [見る・活動] (98) 藤間精練株式会社	口絵
---	----

Series

産業保健の仕事に携わって (8) クボタショック後の取り組み	熊谷 信二36
凡夫の安全衛生記 (27) 「景色が変わる」機械安全対策②	福成 雄三42
労研アーカイブを読む (41) W型問題解決モデルによる研究技能の習得	椎名 和仁44
産業安全保健専門職と活用⑩ 両立支援コーディネーター	谷 直道48
にっぽん仕事唄考 (66) 炭鉱仕事が生んだ唄たち (その66) 記憶再生装置としての「音頭」と「小唄」	前田 和男52

Column

Talk to Talk 移ろいに触れ	肝付 邦憲50
労働科学のページ	58
次号予定・編集雑記	64

科学における男女共同参画

川島 慶子

「自然(宇宙)は数学の言葉で書かれている」とは、異端の地動説を唱えたとして、宗教裁判にかけられた天文学者のガリレオのセリフである。科学の本質という問題からいうと「それでも地球は動いている」という(事実ではない)ものよりこちらのほうが重要である。なぜなら、先のセリフは、科学の根幹を変えたからである。じつに「理系なら数学が得意なきや」という、現在の常識となつてくる考えは、近代科学が社会に根を張つてからのものであり、ほんの数百年の歴史しかない。

この話が日本の男女共同参画となんどの関係があるかという点、「数学のジェンダーイメージ」という点で関係がある。「リケジョ」という言葉で理科系の女子を増やそうという試みが散見される今日この頃だが、そもそもこんな言葉ができてるのは、理科系に進学する女性が少ないからで、「イクメン」と同じだ。そして理科系はまだの名を理数系ともいう。つまり、数学は科学の基礎というガリレオの思想がここにも生きています。でもって、正直なところを言ってしまうと、数学は学校教育の中でその優劣があまりにも残酷に出てしまう科目であり、多くの子どもたちがまっさきに落ちこぼれる科目でもある。

「自然(宇宙)は数学の言葉で書かれている」とは、異端の地動説を唱えたとして、宗教裁判にかけられた天文学者のガリレオのセリフである。科学の本質という問題からいうと「それでも地球は動いている」という(事実ではない)ものよりこちらのほうが重要である。なぜなら、先のセリフは、科学の根幹を変えたからである。じつに「理系なら数学が得意なきや」という、現在の常識となつてくる考えは、近代科学が社会に根を張つてからのものであり、ほんの数百年の歴史しかない。

というイメージが巷にあるので、数学の苦手な男性は数学嫌いの女性以上にコンプレックスを持つようになる。結果どうなるかというと、数学のできる女性に対する激しい嫉妬、あるいは崇拜という結果になる。人気ドラマ「相棒」に出てくる美人女将が数学パズルの名手であり、周囲の男性から畏怖と羨望のまなざしを受けるというあの設定は、この構図にぴったりとあてはまる。しかし現実には崇拜より嫉妬の方が多い。男性社会の中で男に嫉妬されることがどんなに恐ろしいか、女の子は痛いほど知っている。減りつつあるのは事実だが、昔はそのせいで、才能があつても自分から数学を放棄する女の子がたくさんいた。「女の子らしくない」からである。じつは栄養学だって理系で科学なのだが、数学が不要と思つている人が多い。こうした理系なら女の子は安心できる。男に嫉妬されないからである。

科学を学びたい女性が欲しいのは、もちろん嫉妬ではないが羨望でも畏怖でもない。ただ、周りの人、特に男性に普通に接して欲しいだけだ。日本初の女性物理学者にして、戦後初の頭脳流出知識人である湯浅年子が、1947年に出した『科学への道』というエッセイがある。

湯浅は戦前のラジウム研究所(初代所長はマリイ・キュリー)には、女性科学者がたくさんいるだけでなく、みんなごく自然に科学研究をしていると述べ、それを「(女性研究者が)『今日は野菜なにかある?』ときく様に『どんな結果になりました?』と研究結果をきくのである。」と表現している。リケジョ応援もけつこうだが、日本の数学教育をなんとかする必要があるのではないか。「相棒」で、刑事と女将がフツーに楽しく数学パズルを解いているといったシーンを入れるのも悪くないかもしれない。私としては、マスコミに属する男性自身が、自分たちの数学嫌いを自覚し、その罪悪感を払しょくする努力をすれば、かなりの「リケジョ」応援になるのではないかとさえ思つたりするのである。



かわしまけいこ
名古屋工業大学 基礎教育類 工学教育
総合センター教授
主な学術関係受賞…
・山崎賞(2010年)
・女性史青山賞(2006年)
主な著書…
・「マリイ・キュリーの挑戦——科学・
ジェンダー・戦争(改訂新版)」トラ
ンスビュー、2016年